

COMESA月報（2019年2月）

主な動き

（１）COMESAはEUと民間セクター支援のための1000万ユーロの特約に署名 (2019. 2. 18)

COMESA加盟国のビジネスコミュニティは、域内及び世界のバリュー・チェーンへの参加を増加させることへの支援をうけるために、EUによる1000万ユーロの共同積立金から利益を得ることができる。これは、EUとCOMESAが「市場への域内企業の競争及びアクセスプログラム（RECAMP）」の実施のために資金提供協定に署名をしたことによる。RECAMPプログラムは農業加工、園芸及び皮革製品の3つの優先バリュー・チェーンに集中して5年間行われる。

（２）アフリカ開発銀行は、トリパタイト・キャパシティビルディング・プログラムへ資金拠出(2019. 2. 22)

アフリカ開発銀行は、290万ドルの補正資金をトリパタイト・キャパシティビルディング・プログラムに対して拠出した。本資金は、トリパタイト自由貿易協定の円滑な運営に不可欠の重点活動を完了させるために使用される。この重点活動の中でも、産業及び非関税措置のデータベースの完了、衛生・植物衛生措置に基づいた国境管理職員及び女性貿易商への研修、トリパタイト原産地規則の使用に関するマニュアルの完了、バリュー・チェーンの実施に関する行動計画が主だったものである。当初、トリパタイト・キャパシティビルディングは2013年11月に750万ドルで署名され、2018年4月に対米ドル下落を受けて、700万ドルまで削減に至りCOMESAは補正資金を申請していた。

（３）COMESAは、種子貿易の世界貿易シェアを5%まで上げる予定(2019. 2. 25)

COMESAは、この先3年間で種子貿易の世界貿易額割合を2～5%増加させることを目標にしている。同目標は、COMESA種子調和実行計画の実施を通じて行われる。この目的で、COMESAアフリカ東南部商品取引同盟（ACTESA）がAfricaSeeds（AUの種子プログラムに関する実施機関）と協力し、国別農業食料安全保障投資計画に沿った包括的アフリカ農業開発計画（CAADP）の課題の範囲内で種子セクターの統合が実現することになる。

（４）反汚職遵守に関する地域規約がまもなく展開 (2019. 2. 27)

COMESAは、まもなく、企業がビジネス環境を改善することに資する反汚職遵守に関する地域規約を発展させる。そのイニシアティブは、COMESAビジネス協議会統合プロジェクトにおける活動の一部である。同プロジェクトは、国際私企業センター（CIPE）との連携において実施されている。このイニシアティブの目的は、腐敗を食い止め、透明性を高めるために民間セクターの能力開発をすることであり、良好で実施可能なビジネス環境を達成することである。地域規約は、COMESA域内の企業間で、反汚職遵守のための指針を規定するので、企業が利用・採用することが可能。

（出典）COMESAウェブサイト(<http://www.comesa.int>) より